

講義名	コミュニケーション心理学			授業形態	
担当教員	西尾 範博	開講期・曜日・時間	後期 火曜日 4 時限		
		単位数	2	履修開始年次	1 年生

主題と概要

この授業では、コミュニケーションを心理学、とりわけカウンセリング心理学の知見から捉え、相互理解と信頼、成長を促す質の高いコミュニケーションのあり方について理解を深め、実践する機会を提供する。受講した学生が次のような力を身につける契機が得られるような講義を展開する。

- (1) 家族、友人、知人、クラブ・サークル仲間等々、日頃出会う人びとのコミュニケーションの質を高め、相互理解と信頼、成長を促す力。
- (2) 接客の場において、顧客のニーズを最大限引き出し、満足度を高める力。
- (3) 援助・指導の必要な人のニーズを最大限引き出し、最も適切な援助・指導を行う能力を高める力。
- (4) 指導の場面で、指導対象の思いや考えを最大限引き出し、指導の効果を高め、成長を促す力。

到達目標

- (1) コミュニケーションに関する基礎的な知識を理解し、説明できる。
- (2) コミュニケーションにおける「聞き手目線」と「話し手目線」の違いを理解し、説明できる。
- (3) 非受容を示すコミュニケーション、受容を示すコミュニケーションがどのようなものかを理解し、説明できる。
- (4) 受容が生み出す力を理解し、説明できる。
- (5) コミュニケーションにおける5つの対応の仕方を理解し、説明できる。
- (6) 共感的理解と感情的適着の同一化について理解し、説明できる。
- (7) アクティブ・リスニングについて理解し、説明できる。
- (8) 問題を抱えた人の助けとなるよう相手の真意を理解し、受容することができる。
- (9) コミュニケーションのとり方について日常的に練習を積み、信頼関係を築くことができる。

提出課題

ほぼ毎回の授業において考察課題を予定している。

課題（レポートや小テスト等）に対するフィードバックの方法

課題やレポート等の提出課題に書かれた内容を翌週の授業で話題にし、前回の授業の振り返りや補足説明の機会をとるとともに、翌週の授業内容に組みこんで授業の新たな展開に役立てることにより、学生の理解に即して学生の理解を深めるようにし、到達目標の達成につなげる。

評価の基準

ほぼ毎回の授業で課す課題やレポート等をもとに、到達目標に照らして総合的に評価する（詳細は授業中に示す）。なお、欠席回数が5回になったところで、原則としてこの科目を放棄したものとみなし、評価の対象から外れるので注意すること。

履修にあたっての注意・助言他

- 次の3点が求められることをあらかじめ理解し、実践すること。
- (1) 毎回熱心にノートをとるが基本。
 - (2) 担当教員の指示に従い積極的に主体的に学ぶこと。
 - (3) 授業中に学んだことを授業の中で終わらせずに日常生活において実際に試してみる、練習してみることで、知識を知識で終わらずに日常生活において実践し活用できるよう努めること。

教科書

なし。

参考図書

その他

ほぼ毎回、教材プリントを配布するので、整理保管に努めること。参考文献については、随時多数紹介するので、積極的に読み、考え、学ぶことが期待される。

授業計画

- 1 自己のコミュニケーションのとり方
- 2 自己のコミュニケーションのとり方
- 3 5つの対応の仕方1
- 4 5つの対応の仕方2
- 5 非受容的なコミュニケーション
- 6 非受容的なコミュニケーション
- 7 非受容的なコミュニケーション
- 8 中間のまとめ
- 9 受容的なコミュニケーション
- 10 受容的なコミュニケーション
- 11 受容的なコミュニケーション
- 12 受容的なコミュニケーション
- 13 アクティブ・リスニング
- 14 アクティブ・リスニング
- 15 全体の振り返りとまとめ

授業形態（アクティブ・ラーニング）

ア：PBL（課題解決型学習）	イ：反転授業（知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態）
ウ：ディスカッション、ディベート	エ：グループワーク
オ：プレゼンテーション	カ：実習、フィールドワーク
キ：その他（A-L型であるけども、以上の項目のいずれにも該当しない場合）	

準備学習（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

毎回学んだことをノートや配布プリントを使って復習すること（1時間以上）。また、学んだことを翌週の授業までの日常生活において試し練習したりすること（3時間以上）をもって次の授業の備えとする。

卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連

この授業は、上記の主題と概要、授業計画のもとで到達目標の達成をもって、本学のディプロマ・ポリシーである次の5点に貢献する。「ネアカのびのび・へこたれず」の精神を持った人材、知識を知恵に転換することができる人材、創造力（新しい視点と豊かな発想）を持った人材、自主・自立の精神を持った人材、仲間と協力して、物事を成し遂げることができる人材を育成すること、ならびに、心理コースが養成を目指す「さまざまな場面に直面する人間の心理と行動を科学的に分析し予測することができる」ことと、「コミュニケーション能力と、消費者と援助を求め人の心理と行動の知識を有し、ビジネス場面と援助場面において心理学を応用することができる」ことも目指す。

双方向授業の実施及びICTの活用に関する記述

毎回の授業の冒頭で前回の復習をかたえて、前回の課題を話題に取り上げ、学生とのやりとりを行い、共有を図る。
授業中に学生に問いかけ発問を求め、復習をつくりながら進める。
グループワークを通して双方向性を高める。
クリッカー（レスポンス）を活用して、学生の考えや理解をその場で把握し、学びの質を高める。
以上の4点をもって到達目標の達成に努める。

実務経験の有無及び活用

備考

毎回の授業に主体的かつ意欲的に取り組む学生のみを歓迎する。